

令和 6 年度 県立下館第一高等学校自己評価表

目 指 す 学 校 像	【目指す学校像】 自主自立の精神を有し、地域のリーダーや国際社会で活躍する人財育成を目指し、生徒と教師がともに学び合う学校 【育てたい生徒像】 様々な変化に積極的に向き合い、多様な人々と協働して課題を解決する力や、新たな価値を創造する力を持つリーダー ○ 答えなき課題にも論理的な思考で探究を重ね、主体的にチャレンジする生徒 ○ 豊かな表現力・コミュニケーション力を身に付け、他者と協働しながら課題を解決できる生徒 ○ 未来のリーダーとして活躍できる、知・徳・体のバランスのとれた生徒			
三つの方針		具体的目標		
「三つの方 針」(スкуль・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	①答えなき課題にも論理的な思考で探究を重ね、主体的にチャレンジする人財 ②豊かな表現力・コミュニケーション力を身に付け、他者と協働しながら課題を解決できる人財 ③未来のリーダーとして活躍できる、知・徳・体のバランスのとれた人財		
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	①進学重視型単位制の多様な科目選択と課題解決重視型の授業展開を活用した個に応じた主体的で深い学び、高い学力の育成による進路希望実現 ②人権教育や道德教育を積極的に推進し心の教育の充実を図り、豊かな人間性を基礎にした進路希望実現 ③探究活動を中心に、学校外部資源との連携や姉妹校との国際交流・語学研修を積極的に進め、グローバル人財としての素養を元にした進路希望実現		
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	①基礎・基本を重視した日々の学習を継続的に進め、確かな学力を身に付け、発展的な学習へと意欲的に学習する生徒 ②挨拶を励行し、規律ある生活習慣を心がける自律に努める生徒 ③部活動や探究活動をとおして、多様な他者との協働に積極的に取り組む生徒		
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況
「県立学校等チャレンジ・プロジェクト」強化校の流れを継承し、「館一グローバルチャレンジ ー地域で輝くグローバル人財を目指すー」としてこれまでの事業を発展させる。国際社会や地域社会の課題を発見し、科学的視点から分析力・論理力・表現力を駆使し、主体的・創造的・協働的に課題解決に挑戦する資質や能力を育成することが目標である。担当校務分掌組織として、「組織マネジメント推進部」が担う。 高校と附属中学校の全職員の共通理解のもと、中高一貫教育校のメリットを最大限生か		確かな学力の定着と進路指導の充実	①グローバル人財の育成を目指し、「県立学校等チャレンジ・プロジェクト」重点校として、「館一グローバルチャレンジ ー地域で輝くグローバル人財を目指すー」事業を推進する。海外修学旅行、オーストラリアの高校・大学との姉妹校提携や連携協定を活用した文化交流・語学研修により、国際社会や地域社会で活躍できる生徒を育てる。 ②相互授業参観や職員研修会、附属中学校の授業参観、中高一貫校先進校視察、予備校等での授業研修を通じて、自立した学習者の育成を目指し、アクティブ・ラーニングの視点から授業改善に取組み、「思考力・判断力・表現力を伸ばす授業」を展開する。 ③日々の授業を大切にするとともに、紫西 CS、夏季特別講座、平常課外など、個に応じた柔軟かつ多様な指導を行うことによって学習意欲を喚起し、生徒一人一人の可能性を引き出す進路指導に努める。 ④国公立大学合格 80 名以上(旧帝大・筑波大 10、茨城大・宇都宮大・群馬大・埼玉大 50 以上)、難関私立大合格 50 名以上(早稲田、慶応、上智、東京理科、GMARCH)を目指す。	B

別紙様式 2 (高)

すカリキュラムの策定を、高校と附属中学校が協働して進めていく。	規律ある生活習慣の確立と人権尊重の精神の涵養	⑤学校内はもちろん、校外においても元気な挨拶を励行する。 ⑥自律の精神や自己抑制力の育成を図り、相手の立場に立って考え、行動できる人間の育成に努める。 ⑦カウンセラーとの連携を充実させると共に、全教職員がカウンセリングマインドに立った指導を行い、早期対応に努める。 ⑧基本的な生活習慣の確立を図る。 ⑨規範意識の高揚を図るとともに、制服の正しい着用や礼儀正しい態度を育成し、校則違反者ゼロを目指す。 ⑩積極的に清掃活動に係わる雰囲気づくりを推進し、清潔な学習環境、落ち着いた雰囲気での学習ができる場の形成に努める。	A
	特別活動の充実とコミュニケーション能力の向上	⑪キャリア・パスポートを活用し、特別活動の活性化を通して生徒相互の融和を図り、コミュニケーション能力を育て、自己肯定感を高めていく。 ⑫部活動は、学業との両立を図り、質の高い練習を通じて、県大会や県外大会出場と、学校生活の充実を目指す。(部活動加入率と満足度 80%以上を目指す。) ⑬学校行事の改善充実を図り、中高一貫校としての新たな伝統の継承に努める。	A
	広報活動の推進と地域との連携	⑭ホームページを充実させるとともに、学校案内等を刷新し積極的な情報発信を行い、「社会に開かれた学校づくり」に努める。 ⑮附属中学校とともに学校説明会の充実にも努め、広い地域の中学校・学習塾等への訪問を効果的に実施する。 ⑯学校評議員会、PTA、同窓会等との連携を強化し、情報の公開に努める。 ⑰進路だよりや学年通信などの紙媒体、メール配信やホームページなどの電子媒体を活用するとともに、進路講演会・学年PTA・PTA支部学習会等あらゆる機会を活用して、生徒・保護者に進路や学習に関する情報を提供し、連携を深める。 ⑱創立 100 周年を迎えた伝統校として、地域と連携した課題解決型探究活動を推進し、地域に信頼される学校作りに努める。	A
	いじめの未然防止と早期発見、早期解消の確立	⑲道徳教育や教育相談等を充実させ、いじめの未然防止と早期発見、早期解消に努める。	A
	中高一貫教育校としての高校教育改革	⑳附属中学校と高校が有機的に連携し、魅力ある学校づくりに全職員一丸となって取り組む。	B
	働き方改革の実現	㉑業務の見直しを進め、削減できる事業を各校務部及び学年で協議し、学校全体として 1 つ以上の事業を削減する。	B
	授業改善	㉒生徒による授業評価での授業満足度3.4以上を目標に、生徒の学びを引き出す授業力の評価(Teaching)と生徒の学びを支援し伴走する力の評価(Coaching)により、教員個々の授業改善を推進する。	A

別紙様式 2 (高)

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
教科	国語	家庭学習の励行を推進する。	日常生活において自学自習の習慣を確立させ、積極的に教科に対して向き合う姿勢を作らせる。家庭学習を通し、課題に自主的に取り組ませる。 ③④	A	A	・新課程における指導法や教材の活用、評価方法等の実践の引き継ぎ。 ・目の前の共通テストや大学入試、個別の進路に対応できる知識と、大きく生涯を見据えた、思考力・判断力・表現力の育成の両立を目指した授業展開の工夫と研究。
			定期テストや模擬試験の事後処理として、間違ったところを確認し、また苦手分野を理解させ、今後の自学自習の目安を立てさせ、理解の定着を図る。 ③④	B		
		進学に対応できる読解力・表現力の身につく授業を実践する。	生徒の思考力・判断力・表現力を伸ばすため、グループワーク、ディベートを授業の中で積極的に取り入れる。また、iPadを活用し、理解の共有を深める。 ②	A		
			年間計画に基づく計画的な授業を実践し、生徒に入試に必要な実力を付けさせるとともに、教養としての国語の力や批評精神を高めさせる。 ③④	A		
			読書環境を整える。図書館と連携し、教材に合わせた図書紹介を行うよう努める。また、読書感想文コンクールをはじめ、各コンテスト・コンクールへの応募を促す。 ③⑥	B		
	地歴・公民	新課程に示された、多面的・多角的な考察、構想力、効果的な説明、議論する力の育成に努める。	新聞記事、記録映像、教科書のQRコード、副教材等を効果的に活用し、生徒の興味関心を喚起する授業展開を実践する。 ②③	A	A	・入試を終えての新課程への対応（指導、入試）。 ・計画的な授業震度の確保（スタサプの教材などを活用した計画的な授業）。
			総合・探究科目、公共など、新科目の指導法・評価法について研鑽・協議する。 ②	A		
			新教育課程研修協議会など各種研修会に参加し、研修結果を教科内で共有し、授業改善に役立てる。 ②	B		
			生徒の自発的・能動的な授業への参加を促す学習法を開拓する。 ②③	A		
		時事、論述問題に対応できる考察力、構想力を育成する。	ニュースや新聞など、リアルタイムな題材を考えさせる。 ②③	A		
			互いの意見を発信・議論する力（ディベート力）を養う。 ②	B		
		自ら進んで学び考える学習習慣の育成に努める。	自ら課題を設定し、考察、発信できる学習習慣の構築、メディアリテラシーの能力育成に努める。 ②	B		
	数学	基礎学力の向上を図る。	授業の開始と終了時刻を厳守する。 ③⑩	A	A	・新課程における共通テストや個別入試に対応できる指導法や評価方法等の引継ぎおよび改善。 ・思考力・判断力・表現力等の育成を目指した授業展開の工夫と研究。
			年間学習計画に沿うよう交換、補填で授業時間の確保に努める。 ③④	A		
			章末テスト等を利用して学習の理解度を把握し、不十分な生徒へは、補習を実施する。 ③④	B		
			学習内容を定着させるため、休み時間、放課後等に質問を受ける体制を整える。 ③④	A		
		家庭学習習慣の定着に努める。	課題に取り組ませ、家庭学習の習慣をつける。 ④	A		
		自ら学ぶ意欲を育めるよう、授業の改善に努める。	授業終了後に指導内容を点検し、次の授業改善に活かす。 ③	A		
			学習実態調査に基づき、生徒の実態に即した指導法を工夫改善する。特にグループワークやグループディスカッションなど主体性のある授業を展開する。 ②③	B		
	理科	分かりやすい授業、興味関心を喚起する授業を提供する。	学年を超えて教科内で指導内容を話し合い、授業公開を利用して、授業内容・指導法を研究する。特にICT機器を活用した授業を研究する。 ②	B	A	・新課程の観点や評価について研修を行う。
			時事ニュースや最先端の研究テーマを取りあげ興味関心を喚起する。 ①②③	A		
			教材・発問の工夫や実習助手の協力による実験の実施、更に効果的なコンピュータを活用した授業を展開する。 ①②③	A		

別紙様式 2 (高)

			資料集の活用や実物を通して、身近な自然現象に関連をもたせる。②③	A		・基礎的な問題が難しい生徒への個別指導や演習時間、課外は実施できてはいたものの、理解が充分ではなかった場面があり、もう少し時間を設けたい。また、理科に関する校外研修に積極的に参加する。
		自然現象に関する問題提起をし、理科的な思考や発想を身につけさせる。	生徒同士での話し合いやグループ活動などを活用して、主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業づくりを行う。①②③	A		
			単元ごとに関連した実験観察を実施し、考察力を養う。②	B		
		進学に対応できる思考力・判断力・表現力を伸ばす授業を目指す。	受験頻出問題を単元ごとに取り込み、演習時間を確保する。③④	B		
			理科に関連する研修へ積極的に参加し、各自研鑽に努める。②	B		
		生徒個々の習熟度に応じた指導をする。	課外の実施、学習内容の深化のため適宜質問応答の時間を設ける。②④	B		
			基礎力の身につけていない生徒に対し、個別指導等を実施する。③	B		
	保健 体育	I C T機器を活用した保健の授業を展開する。また、授業を通じ健康観や人生観の向上を図る。	単元目標を把握し、教員間で情報を共有しながら授業計画をすすめられるようにする。②③②	A	A	・体力テストの結果を分析し、記録が低い種目をフォローできる補強運動を取り入れていく。 ・保健の授業はもちろん、体育授業においてもI C Tを活用して展開することができた。特にペアワークやグループ学習を充実させることができた。 ・体育、保健ともに生徒がインプットアウトプットできるよう、指導形態を工夫していく。
			最新のデータや資料を収集し、I C T機器を活用したペアワークやグループ学習の充実を図り、主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業を展開する。①②③②	A		
		現代社会の中で、心身共に健康に過ごしていく為の知識を習得し、実生活に活かす。	生涯にわたって健康作りの基礎となる知識を身に付けさせる。②⑧	A		
			毎時間保健ノートの問題に取り組む。また、定期的に保健ノートの確認を行い、知識の定着を図る。②③	A		
		基礎体力の向上を図りながら、種目ごとの特性を理解し、スポーツの楽しさを覚えることで、生涯にわたって運動に親しむ習慣を定着させる。	年間を通じて、毎時間補強運動や体づくり運動の時間を設け、体力向上を図る。②⑧⑫	A		
			ゲームの進め方やルールを工夫し、生徒の実態にあわせ生徒の運動量を確保する。⑥⑨⑫	A		
			各運動領域で、その種目の経験者を分散してグループを作り、生徒の技術向上を図る。②⑥⑪	B		
			各グループの技量や技術のバランスを考え、生徒が楽しむことのできるゲームを展開する。⑥⑪⑬⑫	A		
	芸術	授業研究に取り組み、指導法の工夫・改善を図り、生徒が芸術についての学びを深められるようにする。	スポーツにおいて生徒自ら審判を経験することで、ルールを遵守することを学ぶ。⑥⑨	B		
		さまざまな表現・鑑賞活動を通し、生涯を通じて芸術を愛好する生徒を育成する。	豊かな想像力や感受性を養うため、個別指導も念頭に置いた、個性を尊重する指導を行うとともに、日本の伝統的な芸術に触れ体験できる授業を展開し地域社会で活躍できる生徒を育て①②③⑬⑫⑫	A	A	・他教科との連携を図り授業を進められたのは成果の一つ。一方で、紫西 CS を活用しきれなかった。1,2 年生については次年度も継続できるかが課題であり、3 年生については、学年との連携がうまくいかなかったことも要因の一つであると感じる。担当学年との連携が課題。
			生徒が主体的に取り組める教材を精選し、グローバル社会で活躍していけるような芸術的素養を身に付けさせ、中高を通して芸術探究のできる授業を展開する。①②③④⑫⑫	A		
		生徒一人一人の進路希望の実現を目指す。	さまざまな表現活動を実施しながら、コミュニケーション力を高め、仲間と共に協働的に活動できるグループワークを多く取り入れる。①②③⑥⑦⑬⑬⑫⑫	A		
			鑑賞活動等を通じ、地域の伝統芸能や芸術を体感し、芸術のよさや楽しさを感じさせることにより、深い学び・対話的学びを実現させる。①⑤⑥⑫	A		
		環境整備に努める。	芸術系及び音楽教育系大学の進路希望者にも対応できる授業内容の充実を図るとともに、個に応じた紫西 CS 等を活用した課外を実施し、進路希望の実現に努める。①③④	B		
			表現活動に応じた、教室環境の整備に努める。⑩	A		

別紙様式 2 (高)

	英語	下館一高の英語教育をつくる (第1期)。	Can・Do リストを活用し、教員間、教員と生徒間で学習到達度目標の共通認識を図る。 新課程の指導法や教材の活用、評価法等の実践を学年間で引き継ぐ。 ②③④	B	A	・ 中高 6 年間を見通した Can・Do リストの作成運用 や、教材や評価方法等の引継 ぎなど、中学と高校間の連携 をより一層深め、特色ある英 語教育を目指す。 ・ 個別最適化した指導を実践 するため、ICT の活用を積極 的に進める。 ・ 将来に生かされる英語運用 能力を育むため、適切な言語 活動やパフォーマンステスト の実践に努める。
			計画的かつ持続可能な評価方法の研究と実践を行う。 ②③②	B		
			教材の共通化を図り、指導法の研究とノウハウの蓄積を行うために相互授業参観を積極的に行 う。 ②②	A		
			中高 6 年間を見通した効果的な指導体制づくりを進めるとともに、その指導を考えるために、 中高間での相互授業参観の機会を設ける。 ②	B		
		CEFR-J A2.2 以上の生徒数：1 年生 75 名、2 年生 100 名、3 年 生 170 名を目指す。	生徒が各技能の向上に目標をもって取り組めるよう、日々の授業の中で働きかけ、支援する。 ②③④②	A		
			言語活動やパフォーマンス課題を通して、生徒の学習到達度を把握し、適宜助言をする。 ②③②	A		
			英検等の外部試験の受験を促し、面接や英作文の練習を支援する。 ④	A		
		自律的に学習を進められる生徒 を育成する。	ICT の活用をしながら家庭学習の見取りを行うとともに、学習を振り返る機会を定期的に設け る。 ②	A		
			日々の授業や課外等を通して、個々の到達度や適性に応じた学習支援を行う。 ③④②	A		
	家庭	暮らしに関わる基礎的・基本的 知識と能力を育てる。	実生活に生かすため、実験・実習等の実践的学習を多く取り入れた授業を展開する。 ②③	A	A	・ 新聞記事の活用度を増や し、時事的な教材も取り入 れ、より実践的な理解度を深 める。また、各単元において 実生活での各自の課題を見つ け、学習したことから課題を 解決しようとする機会を増や す。
			学習ノートの提出や定期考査で学習の理解度を確認する。 ②③	A		
		生活における問題を発見し、課 題を設定して解決のために思 考・判断できる生徒を育てる。	ワークシート・ICTを活用し、思考・判断・表現を把握する。 ②	A		
			家庭に関する新聞記事等を活用し、ホームプロジェクト学習（課題解決型学習）につなげる。 ②	B		
	情報	座学を通じて、情報に関する科 学的な思考力、判断力を伸ば す。	情報社会の仕組みについて興味を喚起し、共通テストに対応できる知識を習得する授業を行 う。 ①	A	A	・ 情報技術の基礎の理解をよ り大切にし、問題解決力を身 に着けるような学習への取り 組みを増やす。 ・ PC 室で使うことのできる ツールをより活用してグルー プワークや評価に役立てる。
			Google for Education 等のツールを積極的に活用し、グループワークの際に生徒が合意形成の 手法を学ぶ助けとする。 ⑥⑬⑱	A		
		実習を通じて、情報技術を活用 する基本的な技能と表現力の向 上を図る。	実習にオンライン教材を活用し理数的なものの考え方を学ばせるとともに、オンラインの小テ ストで評価の機会を増やすことでより細かく生徒の達成度を把握し、個別の指導や観点別評価 に活かす。 ②③	A		
			PC 室の環境の改善や利用法の工夫を行い、より生徒が学びやすい環境を作る。 ②③	A		
		正しい情報リテラシーを身につ けさせる。	現代に即した情報モラルの習熟を図り、知識・理解をレポート等により確認する。 ①⑱	B		

別紙様式 2 (高)

教務部	特色ある教育課程の編成及び運営に努める。	各学年・各教科・各校務部との連絡調整を行い、将来を見据えた、より良い教育課程や時間割の編成や運営に努める。進学重視型単位制の特色を教育課程に反映させる。①②	B	A	・令和7年度は、高1から高3まで単位制になり、組授業、分割授業、選択授業など、一層時間割が多様化する。時間割変更等がスムーズにできるよう、改善点を検討する。 ・DX ハイスクール事業1年目では、設備面での充実を図ることができた。中高の連携を密にし、2年目では、学習支援の面で生徒への還元が十分にできるよう事業内容を計画したい。
	授業時間の確保に努める。	計画的な運用により現行のカセットシステムの利点を最大限に活かし、授業時間の偏りを減らすための曜日変更や行事の調整を行い、バランスのとれた学習進度を維持する。③	B		
		日々の授業変更を管理し、適切な時間割を立案する。授業の開始と終了時刻を厳守し、1時間の授業にこだわることで、生徒・職員ともに「授業を大切にする」意識の徹底を図る。また、授業時数のバランスの確保に留意し、特別時間割などの調整を行う。③	A		
	各校務部・各学年・各教科などとの連携を密にし、円滑な学校運営を図る。	「チーム学校」の考えのもと、附属中・各校務部・各学年・各教科などとの連絡を密にし、各行事の日程や内容などの情報収集に努め、その円滑な運営や改善を図る。また、組織的・協働的に諸課題の解決に取り組み、働き方改革につなげる。⑪⑫	B		
	定期テストなどの円滑な運営を図り、授業改善に努める。	定期テストの企画立案、時間割の作成とともに、校務支援システムを使用し、円滑な運営に努める。各教科・学年からの要望も取り入れ、結果が効果的に生徒に還元され、授業で培った力がより正しく評価されるように、テストの在り方や内容を十分検討していく。③	A		
		観点別学習状況評価について理解を深め、生徒の学習実態を反映するように、評価方法の工夫や在り方を更に研究する。大学入学共通テストに関する情報収集、共有に努め、授業への反映を図る。②③	B		
	生徒の進路希望実現のための情報共有と活用できる環境を整備する。	学習進路部と連携して、大学情報等のデータ更新などのサポートを心がけ、生徒の進路計画を立てやすくする。④	B		
	ICT環境を整備し、校務や校外への情報発信の効率化を図る。	公文書等の処理システムの円滑な運用をサポートする。また、ホームページ、館一メール、Google カレンダーを通じて、行事連絡や非常時の対応を迅速に伝え、近隣中学校や地域からの理解と信頼を得られるように工夫する。ICT活用のノウハウを教員間で共有できるよう、関係校務部と連携する。DX ハイスクール事業を通して、ICT 環境のさらなる充実を図る。⑭⑫	A		
	個人情報および構内情報システムのセキュリティを確保する。	ネットワークに関わる情報の提供に努め、教員間の情報格差をなくす。⑫	A		
		パソコンやタブレットの取り扱いに注意し、情報管理の徹底を図る。⑫	A		
		成績処理用にクローズされた校内LANを併せて整備し、管理する。⑫	A		
		校内LANのセキュリティ管理をする。サーバー等を整備し、個人データの管理を徹底する。⑫	A		
生活部	心の教育の充実に努める。	挨拶の励行とマナーアップの推進に努める。特に挨拶については、毎月の生活目標を示したプリントを教室掲示し、さわやかマナーアップ週間の登校指導と連動させ継続的に指導していく。⑤⑥	A		・基本的生活習慣の確立へ向けた取り組み、特に挨拶の励行については徹底していきたい。
		問題行動の予防や早期対応に努める。いじめなどの実態把握をするため、定期的にアンケートを実施する。⑥⑬	A		
		スクールカウンセラーと連携し教育相談の充実に努める。教職員対象のカウンセリング研修会を実施し、全ての教職員で心の指導にあたる体制づくりをする。また、カウンセリング・サポート係が中心となって、心の問題を抱える生徒に早期に対応する。⑥⑦⑬	A		

別紙様式 2 (高)

	服装をきちんとさせるなど、規範意識の向上に努める。校則違反者 0 を目指す。	学年・担任・授業担当者による指導や呼びかけを徹底する。毎月実施するさわやかマナーアップ週間の登校指導、集会時における生徒への呼びかけを通して、服装をきちんと着用させ、規範意識の向上に努める。 ⑤⑥⑨	A	A	・学年主任会議等で得られた情報を、関係職員と共有し、心の問題を抱える生徒に早期対応を心がける。 ・各学年の協力をお願いして、自転車・バイクによる交通事故 0 を目指す。 ・スマホ家庭のルールや、基本的生活習慣について、もう一度確認させ、意識の高揚を図りたい。 ・さらなる環境美化に向けて引き続き、職員・生徒一同で協力して清掃等に取り組む。
	基本的生活習慣の確立に努める。	欠席・遅刻生徒を減らすために、各学年、担任と協力体制をとって指導にあたる。怠学による遅刻の多い生徒に対しては、生活部、学年と協力体制をとって継続的に指導していく。 ⑧⑩	A		
		毎月実施するさわやかマナーアップ週間の登校指導などにおいても、時間の厳守を呼びかけ、怠学による遅刻生徒の減少に努める。 ⑤⑧	B		
	安全で有意義な学校生活の実現に努める。	登校指導や自転車・バイク点検の際に、交通マナーアップなどの安全指導を実施する。 ⑥⑨	A		
		教室を離れる際は、教室の施錠を徹底する。自転車置き場の巡回も必要に応じて実施する。 ⑨⑩	A		
		交通安全委員を中心に P T A ・警察・地域社会と連携しながら交通安全キャンペーンやバイク講習会を実施する。 ⑤⑨⑬	A		
	ケータイ・ネットの安全利用の充実に努める。	ケータイ・ネットの安全利用を呼びかける。また、集会時においても危険性を訴えていく。スマホ利用に関する実態調査の結果を基に、睡眠時間・学習時間確保のため、学習進路部と連携し使い方について指導していく。 ⑥⑨	A		
	健康教育を推進し、心身ともに健康に生きるための知識と能力を育て、健康に対する意識の高揚を図る。	新型コロナウイルスやインフルエンザなどの感染症の予防や啓発に努める。 ⑩	A		
		性に関する講演会・薬物乱用防止教室を、外部講師を招聘し 1 年次に実施する。 ⑬	A		
	健康で安全な学校環境の整備及び美化に努める。	月 1 回のペースで、生活部職員が校内を巡視し、清掃用具の破損や不足を確認して、清掃が滞りなく行えるように環境を整備する。 ⑩	A		
		避難訓練を通して、非常時にも冷静沈着な行動を取れるようにする。 ⑩⑬	A		
		クリーンアップ作戦を通して、地域の美化対策に協力し、また清潔な環境整備の重要性も指導する。 ⑩⑬	B		
		毎日の清掃活動を指導し、清潔な学習環境整備に努める。 ⑩	A		
		保健室の適正使用を指導する。 ⑦⑧	A		
特 別 活 動 部	特別活動を通して、豊かな人間性を養う。	学業との両立を保ちつつ、部活動の活性化を図り、部活動参加率と満足度 80%以上、県大会・県外大会出場を目標に充実した活動を目指す。また、各行事も含めた特別活動への生徒一人一人の振り返りを通して自己実現を図る。 ⑪⑫	A	A	・主体的かつ協働的に行事に関わる生徒を増やす。 ・負担減少のための業務の精選と効率化。 ・クラス数に応じた部活動数の削減。 ・成績等による生徒会予算額の設定。
		芸術鑑賞会において本物の舞台芸術を体験させ、想像・創造力の充実を図る。 ⑬	A		
	中学・高校の連携した行事の改善を図る。	附属中学校での特別活動の内容を検証し、中高一貫を含めた充実した活動を通して多様なコミュニケーション能力の育成を目指す。 ⑬	B		
	学校行事を充実させる。	生徒会と執行部が中心となり、生徒の自主的かつ充実した活動を通して、計画を立てて実行する力と、生徒一人一人のコミュニケーション能力の育成をはかり、より良い人間関係を構築する。 ⑪⑬	A		

別紙様式2 (高)

学 習 進 路 部	生徒の学力向上を支援する。	スタディサブリを効率的に利用して、生徒の学習状況を把握するとともに、生徒の自学力の向上を図る。 ③④②②	A	A	・ 課外・紫西 CS・学校開放等の効果的なあり方を検討する。 ・ 引き続き進路指導に関する研究会への参加を促し、全職員間での進路情報の共有を進める。 ・ 学年間の連携を密にし、3年間を見据えた進路指導体制作りを進める。
		外部模試等の結果を管理し、データを有効活用する。 ③④	A		
		全生徒の学力向上を目指し、課外（平常・夏季）・紫西 CS・学校開放等を計画し、生徒の学習活動を支援する。 ①③④	B		
		各学年で「学習アドバイス」を発行し、生徒の自学自習を促す。 ①③④	A		
		授業の進度表を作成して生徒に提示し、定期考査前指導を組織的に行い、欠点者ゼロを目指す。 ②③	B		
	教員の授業力及び進路指導力を高める。	長期休業中の予備校による教員研修を奨励し、新しい学力観に基づく授業改善に資する。 ②③④②②	A		
		進路指導に関する研究会等に積極的に参加し、成果を他の教員に還元する。 ②③	B		
		卒業学年による進路報告会を開き、3年間を見据えた進路指導を行う。 ③④	B		
	確かな学力に基づいた進路実現を支援する。	生徒に適切な進路情報を提供するとともに、生徒が進路情報を身近に閲覧できる環境の整備に努める。 ③⑰⑱	B		
		外部模試を計画的に実施し、その結果及び動向を把握し、生徒の進路選択に資する。 ③④	A		
		国公立大学合格 80 名以上（旧帝大・筑波大 10、茨城大・宇都宮大・群馬大・埼玉大 50 以上）、難関私立大学合格 50 名以上（早稲田、慶応、上智、東京理科、GMARCH）を目指す進路指導体制を整える。 ①③④	B		
	キャリア教育の充実を図る。	生徒の進路希望を把握し、各学年に適切な進路情報を提供し、進路だよりや進路の手引きの発行を通して、生徒や保護者にも進路情報を効果的に発信する。 ③⑭⑰	A		
		各学年で進路行事（進路講演会・紫西プレカレッジ・企業訪問・大学見学会・合格者との懇談会等）を計画的に行うことで、学問への興味関心を喚起し、進学への意識を高める。 ③⑰	A		
		医学部進学支援を行う。 ③④	A		
		小論文、志望理由書の指導を1年次から体系的に実施する。 ③④	A		
		大学公開授業等を案内し、参加を促す。 ③④	A		
	図書館の環境を整え、資料・情報を収集し、提供する。	図書の実態を図り、展示・装飾・配置レイアウトを工夫する。 ③⑬⑳	A		
		探究的な学習につなげられるような資料・情報を収集し、提供する。 ③⑬⑰	B		
		生徒主体の図書委員会活動を行う。 ③⑥	A		
	適切な役割分担を遂行する。	各係の連携を図るとともに、各係の仕事内容を吟味・整理し、緊急の事態や新しい課題に対応できる態勢をつくる。 ⑰⑳	B		
渉外部	PTAの活動を充実させ、諸行事への保護者の参加率を高める。	PTA総会及び支部総会などを充実したものにする。 ⑱	A	A	・ 昨年度、参加希望者が少なく中止とした大学見学会が実施できた。ただ、参加希望の保護者は想定より少なく、今後は実施内容等について検討していく必要がある。
		校内外で開催される各種PTA会合に積極的に参加し、多くの情報や資料を収集し、今後のPTA活動に活かすように努める。 ⑰	A		
	学校と家庭の連携を図り、協力体制を深め、生徒の学校生活を充実したものにする。	各支部の活動について、適切な支援を行う。 ⑰	B		
		生徒指導委員会や学年PTAなどを通して、保護者と職員間の情報交換を行い、共通理解の下に、生徒の生活上の変化や問題点を把握し、指導の協力体制を確立する。 ⑰	A		

別紙様式 2 (高)

	広報活動を充実させ、情報の公開に努める。	大学見学会などを通して、保護者に進路に関する情報を提供し、連携を深める。 ⑰	A		
		広報委員会の活動を通して、保護者の活動を充実させるとともに、PTA及び生徒の活動についての情報の公開に努める。 ⑯	A		
組織マネジメント推進部	「総合的な探究の時間」を通して、学びに向かう力、人間性を伸長し、他者と協働しながら課題解決にあたることのできる人財を育成する。	課題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力が育成できるような探究活動の計画・実施に努める。 ②③⑱⑳	B	A	・3年間（中・高とも）を見通した探究計画を立案し、教員・生徒がともに目指すゴールを認識して活動ができるようにする。→「探究3年計画」および「探究ハンドブック」を作成する。 ・ゼミ編成を工夫し、生徒・教員がより密度の濃い活動ができるようにする。→「少人数ゼミ」「ゼミ担任制」 ・探究活動を中心とした、中高連携の推進 →「共同探究」など ・海外研修の充実を図る。 ・地元行政や大学、企業など、外部資源を活用した活動をさらに推進する。
		課題の設定・情報の収集・整理分析・まとめ・表現など探究の過程で、自己の在り方生き方を考えさせる。 ②③⑱	A		
		1人1課題でのテーマ設定とし、生徒の主体的な探究活動を促進する。 ②③	A		
		学年横断のゼミ形式における対話型活動を中心とした探究活動を計画・実施し、他者との協働を通して、課題を再発見したり、知識を深めたりできる場面を設定する。 ②③	A		
		国際感覚をもった人財の育成を目指し、学校外部資源との連携や姉妹校との国際文化交流、海外語学研修などの国際理解教育を推進する。 ①⑱	A		
	「館一グローバルチャレンジ」事業や「校外体験活動」を通して、地域のリーダーや国際社会で活躍する人財を育成する。	筑西市・地域企業と連携を図り、地域社会の抱える課題や未来を考えさせる。 ①⑱	A		
		科学的な思考の獲得に向け、大学や研究施設との連携した科学体験、科学の甲子園等への参加などの科学教育を推進する。 ①②③④	B		
		生徒1人1人の進路実現に向け、探究から進路を考えることができるような教材の作成、及び計画を立案する。 ②③④㉒	B		
	キャリア教育の充実を図る	地元企業や団体でのインターンシップ体験を計画・実施する。 ①⑱	B		
		学校案内等を作成し、目指す学校像を地域や小中学校に発信する。 ⑭	A		
		即時性を備えた外部発信のできるツールの運用を図る。 ⑭	B		
	本校の魅力や特色の外部への積極的な発信に努める。	筑西市や地元企業と連携し、生徒主催の地域イベント等を計画・実施する。 ①⑱	A		
1年次	学習習慣の確立と基礎学力の育成	集中して授業に取り組ませるとともに、効果的に学習課題を課すことによって、予習・授業・復習の学習サイクルを確立させる。 ③④	A	A	・Edv Pathの有用性が実感できない。有効利用につなげられない。活用の是非について検討する。 ・学習アプリの利用方法を改善する必要がある。特にClassroomはクラスを授業ごとに細分化しなかったため、一つのストリームに流れる情報が多すぎた。重要な連絡が見逃され、再確認も容易でなかった。生徒はアナログ
		手帳や学習アプリを使った自己管理を推進することで、家庭学習の習慣化と1日3時間以上の学習時間確保を目指す。 ③④⑧	B		
		アクティブ・ラーニングやPBL型授業などの実践方法を研究し、生徒が主体的に学ぶ授業を行うように努める。 ①②③④	A		
	基本的な生活習慣の確立を図る。	コミュニケーション力の向上に向けて挨拶を励行し、遅刻・早退・無断欠席などの指導を徹底する。 ⑤⑧⑨	A		
		服装・頭髮の指導を徹底し、制服を正しく着用させることで社会性の育成に努める。 ⑨	A		
		清掃活動を徹底することで、学習環境を整えるとともに公德心の育成に努める。 ⑥⑩	A		
		早めの登校を推奨し、始業までの時間に学習をすることで、朝から落ち着いて学校生活を送る環境を作る。 ⑥⑧	A		
	進路目標を決定する。	探究活動、行事（紫西プレカレッジ・企業訪問等）、個別面談などを通して、適正な文理選択及び進路選択につなげる。 ①③	A		

別紙様式 2 (高)

		学習アプリを活用することによって自学力の向上を図り、高い進路目標の設定と挑戦する姿勢を育てる。 ①③④	A		の手帳も活用して個々の管理能力を伸ばしつつ、クラスを細分化、他のアプリとの併用など、よりよい運用方法を検討したい。
		新聞を読むことを推奨し、多くの社会問題に興味を持たせるとともに社会参加を促す。 ①	B		
	コミュニケーション能力の育成を目指す。	部活動・委員会活動・学校行事などに積極的に参加させ、コミュニケーション力と自己肯定感の向上を図る。 ①⑪⑫⑬	A		
		生徒が主体となって生き生きと活動できる学年行事の企画と実行をする。 ①⑬	A		
	いじめや不登校生徒への早期対応をしていく。	定期的な調査と日常的な観察により、いじめの早期発見と解消に努める。 ⑱	A		
		カウンセラーや保護者と連携を強化し、困難を抱える生徒に適切な支援を行う。 ⑦⑱	A		
		道徳教育や学級活動を通して、自己肯定感の向上と他者を尊重する態度を養う。 ⑥⑱	A		
2 年次	学習習慣の改善と基礎学力の向上を図る。	授業に集中して取り組ませるとともに、予習・授業・復習を柱とした学習方法とその習慣を身につける。 ③④	A	A	・進路目標を意識した学習をできるようにする。 ・授業を中心に、互いを高め合えるようなクラスの雰囲気を作る。 ・学校行事や部活動では最上級生として中心となって活動できるようにする。
		自己管理を行うことを指導し、放課後やすき間時間、家庭での自学の習慣化を図り、1日3時間以上の自学時間をつくる。 ③④⑧	B		
		教員は、ALとICTを取り入れた教授・学習法を研究し、生徒が主体的に学べる授業を行うように努める。 ①②③④	A		
	進路目標を決定する。	HRや探究学習、行事(進路講演会・オープンキャンパス講演会等)を通して、具体的な進路を決定する。 ①③④	B		
		課外活動などを活用することによって、生徒一人一人に応じた適切な指導を行い、高い進路目標への挑戦を促す。 ①③④	A		
	基本的な生活習慣の確立を継続する。	挨拶を励行し、遅刻・無断欠席などの指導を徹底する。 ⑤⑧⑨	A		
		服装・頭髮の指導を徹底し、制服を正しく着用する。 ⑥⑧⑨	A		
		清掃をきちんと行い、学習環境を整える。 ⑥⑩	A		
		始業までの時間を大切にして、授業準備などの学習や読書をすることで、落ち着いて過ごせる環境をつくる。 ⑥⑦⑧⑩	B		
	コミュニケーション能力の向上を目指す。	部活動や委員会活動、学校行事等に積極的に参加し、学校の中堅としての役割を意識し、コミュニケーション能力の向上を図る。 ①⑪⑫⑬	B		
		北海道への修学旅行を通して、大自然を感じ、アイヌ文化やその歴史を学習することで、広い視野に立って物事を見ることを学び、将来地域社会で生かせる社会力やコミュニケーション力の礎を作る。 ①	A		
	いじめや不登校への早期対応をしていく。	定期的な調査により、いじめを早期発見し、いじめが原因による不登校者0を目指す。 ⑱	A		
		各教員の細かい観察を元に、定期的な2者面談を行い、カウンセラーや保護者と連携し、困難を抱える生徒に適切な支援を行う。 ⑦⑱	A		
		道徳教育を通して、他者を尊重する態度を養う。 ⑥⑱	A		
3 学年	学習習慣の確立と基礎学力の定着を徹底する。	予習復習を徹底させ、授業に集中して取り組ませる。また、受験機会が増える模試の振り返りを徹底させ、基礎学力の確実な定着を図る。 ③④	A		・学年間の情報共有がすべてにおいて機能することができ、学習面・生徒指導等、学年挙げて協力体制をもって、
		時間管理の徹底を図り、1日平均3時間以上(平日)の学習時間を確保させる。さらには部活動引退後の休日10時間学習を習慣化させる。 ③④⑧	A		

別紙様式 2 (高)

		朝の隙間時間をうまく使うことを促し、「教室」「時習館」「図書室」などを利用し、朝学習の習慣化を図る。 ③④⑧	B	A	対処することができた。 ・生徒の希望を第一に優先することを掲げ、進路決定に臨むことができた。 ・教員間の関係の良さが、生徒にも伝播し、学年全体の雰囲気の良いにつながった。
		7月以降、19時まで学校を開放し、「時習館」・「紫西スタディールーム」の使用を促すことで、学習時間の固定化を図る。 ③④	A		
		教員は、ALを取り入れた教授法・学習法を研究し、生徒が主体的に学べる授業を行うように努める。 ①②③④	A		
	進路目標を達成する。	HRや探究の時間、進路行事などを通して、具体的な進路を決定させる。 ①③④	A		
		多様な課外の実施、小論文指導、志望理由書講座等を通して、生徒一人一人に応じた進路指導を行い、高い目標への挑戦を続けさせる。 ③④	A		
		個別面談を通して、生徒の進路希望及び学習及び精神面の状況を把握する。 ③④	A		
		教員間での情報共有に努め、志望校検討会を複数回行い、変化する大学入試に対応できる体制を作る。 ①②③④	A		
	基本的な生活習慣の確立を継続する。	挨拶を励行させ、遅刻・無断欠席等の指導を徹底する。 ⑤⑧⑨	A		
		服装・頭髪等の指導を徹底し、制服を正しく着用させる。 ⑨	B		
		授業後の黒板消しや清掃をきちんと行わせて、学習環境を整える。 ⑥⑩	A		
		朝の時間に学習に取り組ませ、その習慣化と自主化を図る。 ③⑥⑧⑩	B		
	コミュニケーション能力とリーダーシップ能力の向上を目指す。	部活動・委員会活動・学校行事等に積極的に参加させ、最上級生としての自覚を持った行動をするように指導する。 ⑪⑫⑬	A		
		HR活動等において、他者と積極的に関わり、協力することの大切さを理解させる。 ⑪	B		
	いじめや不登校生徒へは早期対応をする。	定期的な調査により、いじめを早期発見し、早期解消に努める。 ⑬	A		
		各教員の細かい観察を元に、カウンセラーや保護者と早期に連携し、困難を抱える生徒に適切な支援を行う。 ⑦⑬	A		

※ 評価規準：A：非常によいので努力を続ける B：よいので更に努力する C：ふつうだが今一步の努力である D：やや不十分で努力を要する